

抗議と苦情の  
電話をしよう!

# 厚木爆同

【発行】  
厚木基地爆音防止期成同盟  
発行責任者 石郷岡 忠男  
事務所 大和市桜森3-5-3  
フロント1F  
TEL 046-240-7450  
FAX 046-261-5615  
bakudou@kanagawa.email.ne.jp

## 新委員長に石郷岡忠男さん 副委員長に日朝志郎さん 臨時時代議員総会開催される

厚木基地爆音防止期成同盟の臨時時代議員総会を去る8月5日に大和市生涯学習センターで開催しました。

総会は、前委員長大波修二さんの辞任に伴い、新委員長に石郷岡忠男さん（現副委員長）と副委員長に日朝志郎さん（現書記次長）を選出するとともに、厚木爆同運動の大きな柱である第五次厚木基地爆音訴訟の裁判闘争に懸命に取り組み、平和に向けた様々な行動をすべての会員の団結を持って取り組むことを決議しました。

### 委員長辞任について 大波修二

臨時総会は、執行部を代表して委員長代行の石郷岡忠男副委員長が、臨時総会開催の目的と今日的な情勢について挨拶しました。続いて、総会役員選出後、総会執行委員長より、総会構成を満たしているとの報告が行われました。議事に入り第一号議案の役員選出については、役員選考委員会を設置してきたことの報告が行われ、役員選考委員会を代表して平岡幸雄委員長より「新委員長に石郷岡忠男さん（現副委員長・綾瀬支部）を推薦するとともに、副委員長に日朝志郎さん（現書記次長・海老名支部）を推薦する」との答申がありました。答申後、新委員長と副委員長を出席代表議員の満場の拍手で決定しました。続いて、新委員長に選出された石郷岡忠男さんから就任の挨拶が行われ、総会決議、団結ガンバローを行い閉会しました。

第57回厚木基地爆音防止期成同盟の定期代議員総会で就任しました厚木爆同委員長を、この度辞任致しました。辞任の理由は、厚木爆音訴訟は、平和で静かな空を取り戻すため重要な闘いであり、第五次厚木基地爆音訴訟原告団長として訴訟活動を継続することが決定的に重要であると考えました。厚木爆同の闘いと第五次訴訟の闘いは一体であり、両者は更に団結を強めていかなければならないと考えます。第五次訴訟の闘いを強めることは、厚木爆同運動の前進と一体であると考えます。最初は厚木爆同の委員長と第五次訴訟団長としての任務は両立できるのではないかと考えましたが、厚木爆同運動を共に担っている仲間からの意見を受け入れ、委員長を辞任することにしました。

厚木爆同運動の前進と第五次厚木爆音訴訟の勝利のため引き続きがんばります。今後とも、よろしくお願い致します。

### 新委員長挨拶 石郷岡 忠男



この度、厚木爆同の委員長に推挙されました

私たちは、この8月4日、第五次の厚木基地爆音訴訟を横浜地裁に提訴しました。厚木爆同が中心となつて今後も裁判闘争、そして厚木基地撤去の運動に全力を尽くして行こうと思ひます。

これからも、お互いに話し合い、励まし合い、納得した上で、平和で静かな空を取り戻すまでがんばりましょう。

どうぞよろしく御願ひします。

### 第五次厚木基地爆音訴訟 横浜地裁に提訴

午後一時、横浜公園から横浜地方裁判所まで、昨年十二月、最高裁の不当判決の怒りと理不尽さを胸に裁判勝利に向け、「爆音・止める」と声を合わせながら、堂々と行進しました。

横浜地裁前では、弁護士と原告団の役員が、原告の皆さんが提出した委任状と膨大な訴状が入った段ボール箱を持って、たくさんの方々の拍手や激励に送られて、地裁の中に入っていきました。

昨年十二月の最高裁判決から八月という短い期間で提訴。厚木



横浜地裁へ向かう原告団

基地周辺住民の怒りの大きさを強くアピールし、国にも圧力をかけていく事ができました。

その後、会場をワークピア横浜に移し、報告集会を行いました。原告団の方々から連帯の挨拶をいただいた後、弁護士から、今回の訴訟の意義と請求内容について説明を受けました。

最高裁の判決からまもないと言うことで、報道の記録も新しく、知名度が上がった今回の訴訟では、若い人が原告として参加するなど、最終的には一万人を目指し、国に大きな圧力をかけていきます。

今度こそ飛行差し止めを実現し、基地のない平和で静かな空を取り戻す第一歩としていきましよう。

### 東京都議会議員選挙 ご推薦ありがとうございます。

残念ながら当選に届きませんでした。だが、厚木基地の爆音解消と平和の実現のためがんばります。

前都議会議員・町田市 今村るか

### 「基地視察に 参加しよう！」

日時/10月18日(水)  
7時30分~18時帰着  
参加費/2500円  
視察先/陸上自衛隊木更津基地  
川崎市平和館  
米軍横浜ノースドック

# 岩国移駐と厚木基地

## 大和基地対策協議会 部会報告を兼ねて

6月30日に、大和基地対策協議会の部会が開かれた。部会では、毎年夏に行っている防衛省・外務省・総務省への要請活動のための要望書の作成について話し合った。協議会としてはこの2年間空母艦載機の岩国への移駐が最大の話題となっていた。たとえば、昨年の重点要望事項は「空母艦載機の移駐を一日も早く確実に完了し、負担軽減を実現すること」だった。そして今回話し合われた今年の重点要望事項も「空母艦載機の移駐を一日も早く確実に完了させ、市民の負担軽減に結びつけること」とほぼ昨年の要望と同じになった。岩国移駐に対する期待が大変大きいことがよくあらわれている。だが、

移駐後の厚木基地の運用については、国も市も分かっていないということだ。そんな中で、この間の情報や状況を分析すると、厚木基地の爆音被害や墜落・事故の不安は軽減されないだろうとの予測ができる。

その理由の一つ目は、岩国の訓練空域の運用が始まったというが、その空域は民間も自衛隊も使用する空域であり、過密な環境の中、そこでの訓練を米軍が満足するとは思えない。また、硫黄島に替わる施設についても、候補地はあるようだが、地元の反対などもあり、実現のめどが立っていない。当然硫黄島は今後も重要な訓練地であり続ける。また、空母は横須賀を母港として運用することを考えると、硫黄島から岩国基地へ帰るより、厚木基地にいったん飛来すると考える方が「理屈には合う」ということ。

二つ目の理由は、厚木基地内の日本

飛行機（日飛）の工場は大規模な改修工事が行われ立派に完成している。そして日飛の技術力は米軍も高く評価している。基地対策課では、日飛の人員も一部異動するという情報があるというが、客観的に考えて、厚木基地の日飛での整備は今後も重要な位置を占めるであろう、ということだ。

最後に、厚木基地の司令官ジョン・ブッシー大佐が「常駐はしなくても艦載機の飛行はある。訓練で使うこともある。厚木基地はFCLPを実施する硫黄島の代替基地のひとつであり続ける」とはっきり発言していることだ。

基地対策協議会の中でも移駐に関し

ては歓迎する雰囲気があったが、現実にはそう甘くはないと考えた方がよい。そして何より最大の問題は、この岩国移駐が米軍再編の一環として行われてきたことである。つまり、高機能で巨大な在日米軍基地が新たに増えるということなのである。そのことをしっかり認識し、監視していく必要があるだろう。そして、厚木爆同としては、今後も抗議行動、要請行動とともに、第五次爆音訴訟の勝利に向け、被害を受けている住民を結集し、大きな反基地の声を上げるときだと決意を固めているところである。

しようと、地域の人々に呼び掛けて厚木基地爆音防止期成同盟を結成し、真屋さんは書記長・委員長を歴任しました。

そして10年目に鈴木保さんに委員長を任せ、塾の先生として東京で生徒指導にあたりました。

厚木爆同の裁判闘争が第三次原告団を結成するにあたり、原告を増すことに会議を開催しました。

鈴木保委員長は、千人規模の増員を考え提案したら、真屋さんは1万人を主張。当時1万人規模の増員は難しい状況なので五千人規模と言うことで、原告増員運動に取り組み、5040人で真屋さんが原告団長として横浜地裁に提訴。高裁、最高裁と、8年余で三次裁判闘争は終わりましたが、三次訴訟で原告を増員した影響は、沖繩、小松、横田にも及ぼし、各地大勢の人が裁判闘争に参加する事になりました。

裁判終了後も、基地撤去の運動に尽力を尽くされ、ご苦労様でした。

# 支部から

## ごんきちへ

支部長 高久 保

7月に入り、今年も七夕の季節。天候に恵まれましたね。

私たち座間支部は7月7日に25名の会員の参加と本部三役4名で、例年通り支部会議をもち次のことを討議しました。

拡大の取り組み  
三つに、爆音による受信料の全額免除への取り組みと運動  
四つに、当面の行動として第五次厚木基地爆音訴訟への取り組みをする

そして副支部長交代の件などを討議しました。

また、座間市と相模原市にまたがるキャンプ座間（米軍・自衛隊）における1971年覚書の「改定」問題。覚書第1条では、自衛隊一部使用の人数（約300人）と場所が限定され、第2条では「キャンプ座間の基地縮小について最大限の努力をする」と記されています。これを、座間市の遠藤市長と南関東防衛局長が、6月

26日に覚書を見直すことで合意した。結論的には基地強化でありキャンプ座間の整理・縮小どころか恒久化につながるものと、おきなが明久市議からは基地の現状報告もありました。

さらに各項目での討議を深めてゆく中で、仲間（会員）の一人が、その場で第五次訴訟に参加を決めるなどのうれしい結果もありました。

会議のあとの懇親会では、朝から準備をされていた方（いつもありがとうございます）、また料理を持ってこられる方々などで盛り上がり、団結を固め合うことができました。

参加のみなさんお疲れ様でした。



一つに、座間支部の現状及び私たちをとりまく情勢

二つに、仲間（会員）

真屋求さんが、去る4月30日にご逝去されました。

真屋求さんは、厚木爆同初代書記長。二代目委員長、そして第三次厚木基地爆音訴訟原告団長として活躍されました。真屋求さんと共に活動された厚木爆同顧問の浜崎重信さんに、真屋求さんを偲んでの一文を寄せていただきました。

こんな凄まじい爆音の下では住めない、移転補償もこんなに少ないのなら基地撤去の運動を立ち上げて国に抗議

真屋求さんが、去る4月30日にご逝去されました。

真屋求さんは、厚木爆同初代書記長。二代目委員長、そして第三次厚木基地爆音訴訟原告団長として活躍されました。真屋求さんと共に活動された厚木爆同顧問の浜崎重信さんに、真屋求さんを偲んでの一文を寄せていただきました。



真屋求さんを偲ぶ  
厚木爆同顧問 浜崎重信